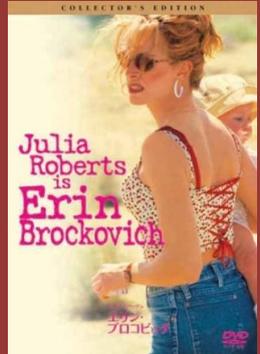
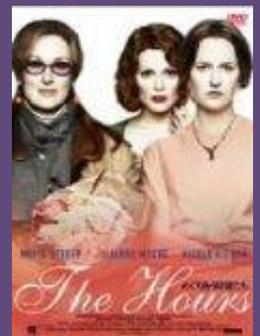


確固たる「個」の追求。
しかし生き方は様々。

経済倶楽部映画サロン

2月は「演技派女優のこの一作一若手・壮年編」特集

制作関係者	上映予定作品	物語	その他の紹介
<p>2/3(金)</p> <p>監督 クリント・イーストウッド</p> <p>出演者 アンジェリーナ・ジョリー ジョン・マルコヴィッチ</p> <p>2008米 カラー142分</p>	<p>「チェンジリング」</p>  <p>「Chengeling」</p>	<p>1928年、シングルマザーのクリスティンは、ロサンゼルス郊外で9歳の息子ウォルターと暮らしていた。ある土曜日、彼女は同僚に泣きつかれ、休日を返上し、仕事へと向かう。暗くなって帰宅すると、一人で留守番をしているはずの息子の姿はどこにもなかった。5か月後、警察からウォルター発見の朗報がとどく。喜ぶクリスティンの前に現れた少年は、別人だった。「この子はウォルターではない！」しかし警察は聞き入れない。逆に彼女は精神異常者にされてしまう</p>	<p>1920年代のLAで実際に起こったノースcott事件を元に映画化。監督は2度のオスカーに輝くクリント・イーストウッド。 平凡な主婦が、子供の行方をつきとめたい一心で腐敗した警察権力に立ち向かい、真実を求めて闘い続ける姿を寡黙なタッチで描き出している。ヒロインを演じるのはアンジェリーナ・ジョリー。華麗なアクションを披露したかと思えば重厚なドラマに出演と、多彩なキャリアを誇る彼女の集大成とも思える熱演ぶりに注目。</p>
<p>2/10(金)</p> <p>監督 スティーブン・ソダーバーグ</p> <p>出演者 ジュリア・ロバーツ (アカデミー主演女優賞) アルバート・フィニー</p> <p>2000米 カラー130分</p>	<p>「エリン・プロコビッチ」</p>  <p>「Erin Brockovich」</p>	<p>3人の子供を抱えるシングルマザーのエリン。職なし、貯金なし、教育なし。しかも追突事故には巻き込まれ、その和解金さえ取り損なう。八方塞がりの彼女は、事故の弁護人エドに、負けたのだから仕事を斡旋するよう、半ば強引に彼の事務所で働くようになる。ある日、彼女は書類整理中に不審なファイルを見つける。それは大企業の環境汚染にからむことだった…。全米史上最高額の和解金を手にした実在の女性をジュリアが生き生きと強烈に演じる。</p>	<p>元ミス・ウィチタ、独身、離婚歴2回、3人の子持ち、無学、無職、残高16\$の女性がアメリカ西海岸を拠点とする大手企業PG&Eから、史上最高額の和解金を勝ち取った。名前はエリン・プロコビッチ。この破天荒な女性をジュリア以外に演じるとしたら誰がいるだろう？前週のA・ジョリーもいい線だと思いが、圧倒的な明るさ、底抜け感が足りないか？どんな場面でも派手な服装で現れ、「私は私、よ！」のスタイルを貫くエリン。ここまでいくといっそ小気味よい…かも。</p>
<p>2/17(金)</p> <p>監督 スティーブン・ダルドリー</p> <p>出演者 ニコール・キッドマン (アカデミー主演女優賞) メリル・ストリープ ジュリアン・ムーア</p> <p>2002英米 カラー115分</p>	<p>「めぐりあう時間たち」</p>  <p>「The Hours」</p>	<p>「私が花を買ってくるわ」とダロウェイ夫人は言った。この書き出しから始まる小説『ダロウェイ夫人』を1925年に書いた女性作家ヴァージニア・ウルフは、1941年に夫レナードへ感謝の書き置きをして川へ入水自殺した。このVウルフの1923年、ロンドンでの一日。2001年マンハッタンの主婦クラリッサの一日、1951年ロサンゼルス、編集者ローラの一日、場所、時代の異なる3人の女性の一日が始まり、巡り合う。キーワードはダロウェイ夫人…。</p>	<p>ヴァージニア・ウルフの小説『ダロウェイ夫人』をモチーフに、異なる時代を生きる3人の女性の不思議なつながりを描くドラマ。監督は『リトル・ダンサー』『めぐりあう時間たち』『愛を読むひと』と、監督デビューから3作連続でアカデミー監督賞の候補になったS・ダルドリー。原作はピューリッツァー賞とペン/フォークナー賞をダブル受賞した作家、マイケル・カニンガムのベストセラー。そして演じる女優はハリウッドの三大女優。これで面白くないはずはない！！</p>
<p>2/24(金)</p> <p>監督 クリス・ヌーナン</p> <p>出演者 レネー・ゼルウィガー ユアン・マクレガー エミリー・ワトソン</p> <p>2006米英 カラー92分</p>	<p>「ミス・ポター」</p>  <p>「Miss Potter」</p>	<p>1902年のロンドン。封建的な空気が漂う時代の中、上流階級の32歳の独身女性ビアトリクス・ポターは、幼少の頃に湖水地方で出逢った動物たちの物語を絵本として世に送り出したいと考えていた。そして、ついには出版を引き受ける会社が現れる。作品に惚れこんだ編集者のノーマンの熱意もあり、「ピーターラビットのおはなし」と名づけられた物語は、驚異的なベストセラーとなる。やがて二人は互いに恋心を抱くようになるが家柄の違いが壁となり…。</p>	<p>心から好きなこと、夢中になれることを見つけ、それをライフワークにすることによって自分自身はもちろん、世界中の人々までも幸せにしたビアトリクス・ポター。現代に生きる私たちから見ても、憧れの女性であるポターを演じるのは、『ブリジット・ジョーンズの日記』で人気を博し、『コールド マウンテン』でアカデミー賞に輝いたレネー・ゼルウィガー。動くピーターラビットがスクリーンで作者のポターと“共演”する必見の名シーンを生み出した。</p>

* 日時、作品は都合により変更する場合がございます。あしからず、ご了承くださいませ。